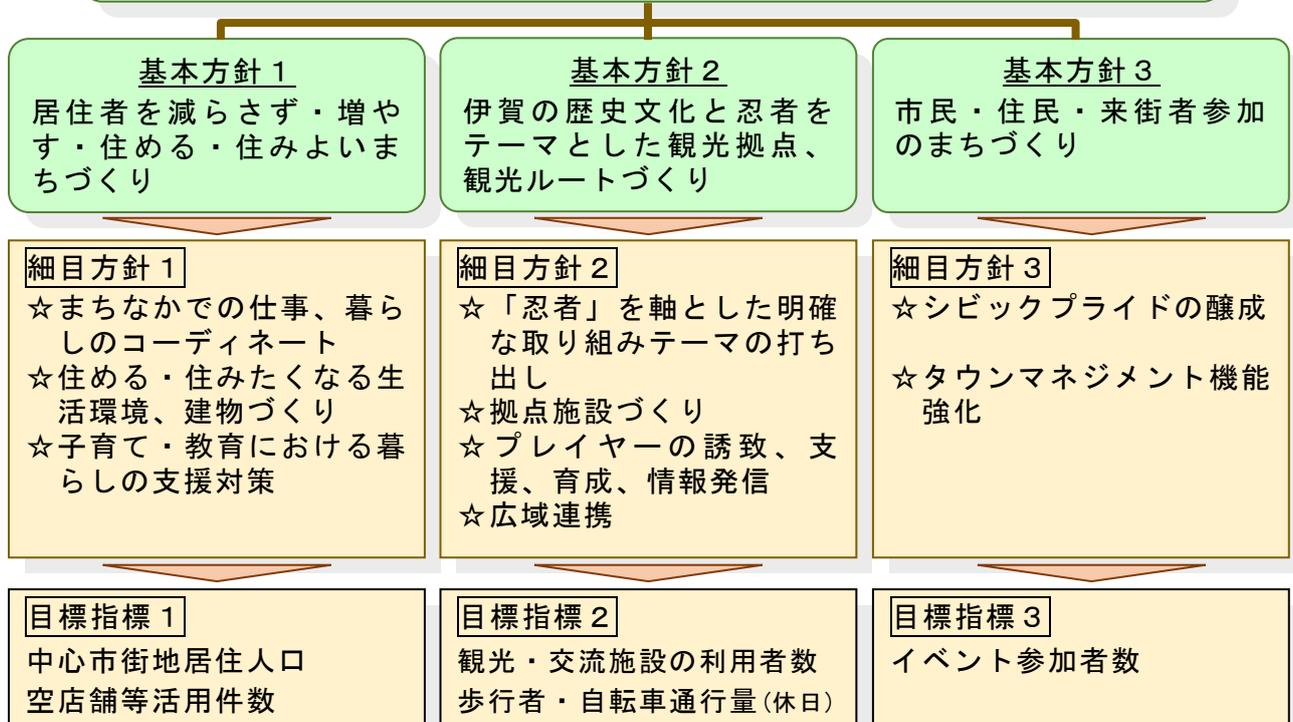


IV. 中心市街地活性化の目標

1. 中心市街地活性化の目標

中心市街地活性化の基本理念、基本方針に基づいて、次のとおり3つの細目方針と対応する目標指標を設定する。

- ◆ 居住と観光が紡ぐ交流のまちづくり
- ◆ 子ども達が住み、夢と誇りを持ち続けるまちづくり



2. 計画期間の考え方

本計画の計画期間は、本計画に位置付ける事業の効果が現れる時期を踏まえて、令和2年度から令和4年度までの3年間とする。

3. 目標指標の設定の考え方

① 指標の設定

	細目方針	目標指標	基準値	目標値
①	☆まちなかでの仕事、暮らしのコーディネート ☆住める・住みたくなる生活環境、建物づくり ☆子育て・教育における暮らしの支援対策	1. 中心市街地 社会増減数	8人 (H30年度)	42人 (R4年度)
		2. 空店舗等活 用件数	3件 (R1年度)	18件 (R4年度)
②	☆「忍者」を軸とした明確な取り組みテーマ の打ち出し ☆拠点施設づくり ☆プレイヤーの誘致、支援、育成、情報発信 ☆広域連携	1. 観光・交流 施設の利用 者数	337,110人/年 (H30年度)	380,000人/年 (R4年度)
		2. 歩行者・自 転車通行量	3,729人/日 (H29年度)	4,000人/日 (R4年度)
③	☆シビックプライドの醸成 ☆タウンマネジメント機能強化	1. イベント 参加者数	103,904人 (H30年度)	127,044人 (R4年度)

4. 目標数値の設定

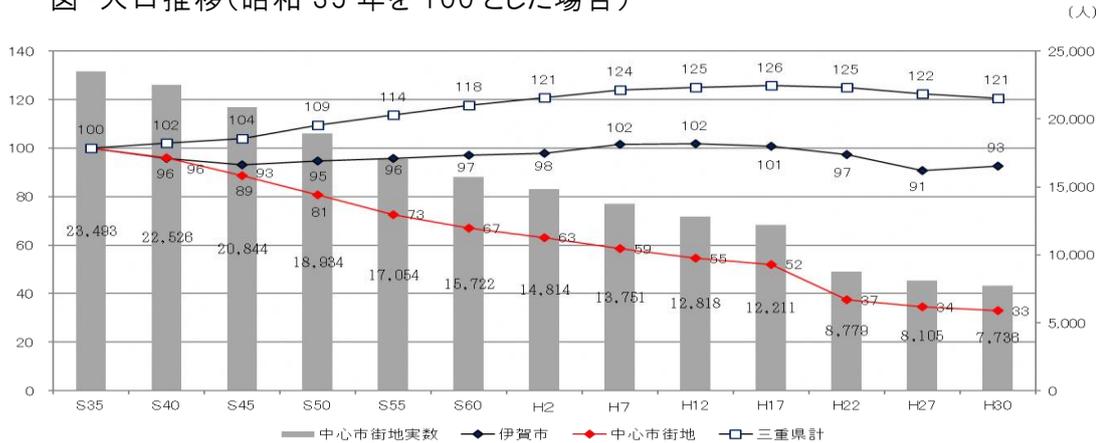
①-1 中心市街地人口の社会増減数

ア. 傾向

過去の中心市街地居住人口をもとに傾向をみると、減少が続いており、S35 (23,493人)～H30 (7,736人)の58年間で年平均272人ずつ減少している状況にある。自然増減については、少子高齢化のため死亡者数が出生者数を大きく上回っており、人口減少の大きな要因となっている。

※社会増減とは、増加要因の転入・転居、減少要因の転出・転居を合わせたもの

図-人口推移(昭和35年を100とした場合)



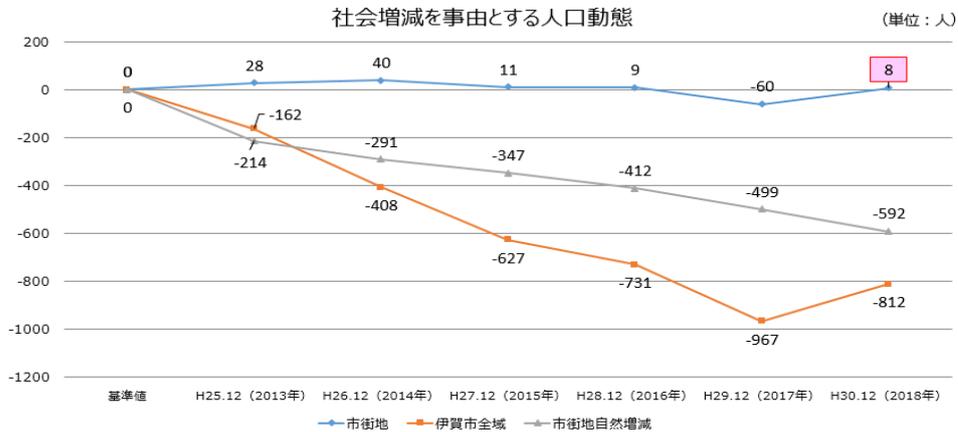
※人口推移グラフの伊賀市は、合併後の数字。

中心市街地は、H17年以前とH22年以降とで対象エリアが異なる。

(資料 三重県、伊賀市:国勢調査(ただしH30は、三重県:H30.10.1 三重の統計情報、

伊賀市:H30.9 末日住民基本台帳)、中心市街地:該当する自治会の各年9月末住民基本台帳)

図-社会増減(平成25年1月1日を0とした場合の人口動態)



令和4年予測値
12人

令和4年目標値
42人

※市街地グラフは、中心市街地外(市内)から中心市街地への転居、及び中心市街地から中心市街地外(市内)への転居を含んでいます

※伊賀市全域グラフは、市外の転出・転入のみとなっており、転居は含んでいません

イ. 目標値

人口の社会増減に着目した目標設定を行うものとする。

平成25年から平成29年までの推移から、令和4年まで社会増減を事由とする中心市街地居住人口の増加約30人(10人/年)を図るものとする。

ウ. 算定根拠

以下のような事業展開を図ることにより、社会増減を事由とする中心市街地居住人口の増加を図る。

対象事業	増加数
・町家等修理修景事業及び助成事業 ・道路美装化による歩行者空間整備事業	2人/年
・子育て包括支援センター事業 ・ファミリー・サポート・センター事業	2人/年
・まちなか移住コンシェルジュ事業 ・まちなか居住のための支援事業（情報発信含む） ・コミュニティ受入態勢構築支援事業	6人/年
合 計	10人/年

◆ 定性的な効果の事業

- ・道路美装化による歩行者空間整備事業

エ. 目標数値積算の考え方

次のような考え方で中心市街地居住人口の目標数値を確保する。

1. 住める、住みたくなる生活環境づくり

- ・『町家等修理修景事業及び助成事業』『道路美装化による歩行者空間整備事業』などにより利活用できる住宅を増加する。
- ・『子育て包括支援センター事業』『ファミリー・サポート・センター事業』などの拡充により、子育て世帯が安全で安心して子育てが出来る住環境をつくるとともにその情報を発信する。

2. 情報発信やコーディネート

- ・住宅や住環境の情報を『まちなか移住コンシェルジュ事業』『まちなか居住のための支援事業』、『コミュニティ受入態勢構築支援事業』などにより、中心市街地外へ情報発信するなど、住宅の事業推進のコーディネートを行う。

3. 事業の効果

- ・これらにより、中心市街地外から移住を呼び込むことにより、居住人口が増加する。

オ. フォローアップ

住民基本台帳から中心市街地に該当する町丁目の社会増減数を毎年度集計・把握し、数値目標の達成状況を把握・分析する。

①-2 空店舗等活用件数

ア. 傾向

現在、伊賀流空き家バンクの中心市街地での事業集積等による調査データが無く、現時点では空家、空店舗等の活用件数とその傾向は不明である。今後、中心市街地におけるこれらの実績や不動産管理物件を含めた空店舗等の現状把握により、空店舗等の所在地と所有者の確認によりデータベース化を図り、データの集積を進める。

イ. 目標値

年5件のペースで空店舗等の活用を進め、3年間の計画期間で15件を目標値とする。

ウ. 算定根拠

以下のような事業による増加分により目標数値を確保する。

対象事業	増加数
・ 商業集積再生事業 ・ 町家情報システム整備及びコンサルタント事業	1件／年
・ 伊賀市起業創出・事業承継促進事業	3件／年
・ 古民家等再生活用事業	1件／年
合 計	5件／年

エ. 目標数値積算の考え方

以下のような事業による増加分によりを実施することにより、空店舗や空家等活用件数の増加を図る。

- ・ 商業集積再生事業
- ・ 町家情報システム整備及びコンサルタント事業
- ・ 伊賀市起業創出・事業承継促進事業
- ・ 古民家等再生活用事業

オ. フォローアップ

町家情報システム整備及びコンサルタント事業においては、空家、空店舗等をデータベース化することにより数値目標の達成状況を把握・分析する。

伊賀市起業創出・事業承継促進事業、古民家等再生活用事業においては、活用数について数値目標の達成状況を把握・分析する。

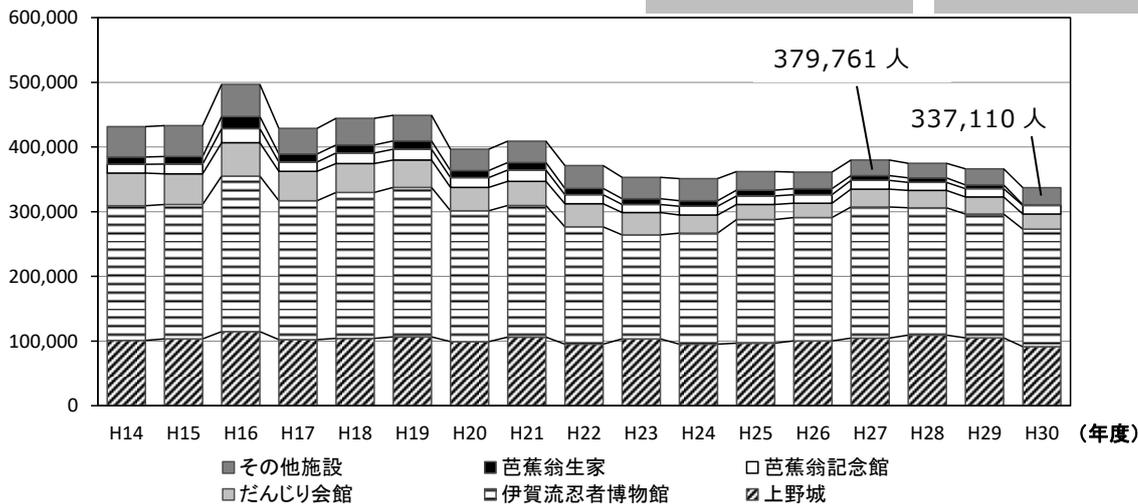
②-1 中心市街地での観光客・来街者数（施設・イベント・まちなか回遊）

ア. 傾向

過去の中心市街地での観光客・来街者数実績をもとに傾向をみると、増減はあるものの H21（408,836 人）～H30（337,110 人）の 10 年間平均で 7,200 人/年程度の減少となっている。

令和 4 年予測値 308,310 人
 令和 4 年目標値 380,000 人

図-中心市街地の観光施設別来場者数の推移 (人)



(資料:伊賀市)

また、三重県全体の観光レクリエーション入込客数は増加しているものの、伊賀市全体では H21～H30 年までは、年平均 1.8%の減少となっている。

□ 観光レクリエーション入込客の推移

単位:人、%

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
三重県	53,309,391	60,121,263	57,529,639	58,554,798	69,179,973	62,678,623	68,912,298	70,836,253	71,487,051	71,005,811
伸び率(%)	—	12.8%	7.9%	9.8%	29.8%	17.6%	29.3%	32.9%	34.1%	33.2%
伊賀市	2,957,473	2,733,223	2,660,918	2,626,603	2,453,823	2,456,143	2,569,316	2,345,772	2,355,066	2,435,818
伸び率(%)	—	-7.6%	-10.0%	-11.2%	-17.0%	-17.0%	-13.1%	-20.7%	-20.4%	-17.6%

※伸び率は、H21 を 100 とした場合

イ. 目標値

直近の 5 カ年の中心市街地の観光施設別来場者数の推移から、最も多い平成 27 年（379,761 人）時点の約 380,000 人/を目標値とする。

ウ. 算定根拠

拠点施設整備事業等とともに以下の忍者をテーマとした取組事業を実施することにより、中心市街地での観光客・来街者数の増加（71,690 人/年）を図る。

- ・ 忍者市プロジェクト事業
- ・ 伊賀流情報発信充実事業
- ・ 伊賀観光代理業の運営事業（着地型発信事業）DMO
- ・ 伊賀上野 N I N J A フェスタ開催事業

エ. 目標数値積算の考え方

次のような考え方で、中心市街地の観光客・来街者数の目標数値を確保する。



オ. フォローアップ

三重県が毎年度実施している観光レクリエーション入込客数をもとに、伊賀市の中心市街地での観光客・来街者数を把握し、数値目標の達成状況を把握・分析する。

②-2 中心市街地の歩行者・自転車通行量

ア. 傾向

過去の中心市街地での歩行者・自転車通行量実績をもとに傾向をみると、増減はあるもののH25（3,558人/年）、H27（3,729人/年）、H29（3,298人/年）、R1（3,584人/年）の4時点平均で3,542人/年となっている。

□ふれあいプラザスーパーの閉店（令和元年9月末）

過去のスーパー閉店翌年（平成11年）における「新天地南口前」前年比24%減少、「本町郵便局前本町通り」前年比22%減少を基に減少予測する。

<令和元年9月末スーパー閉店後予測>

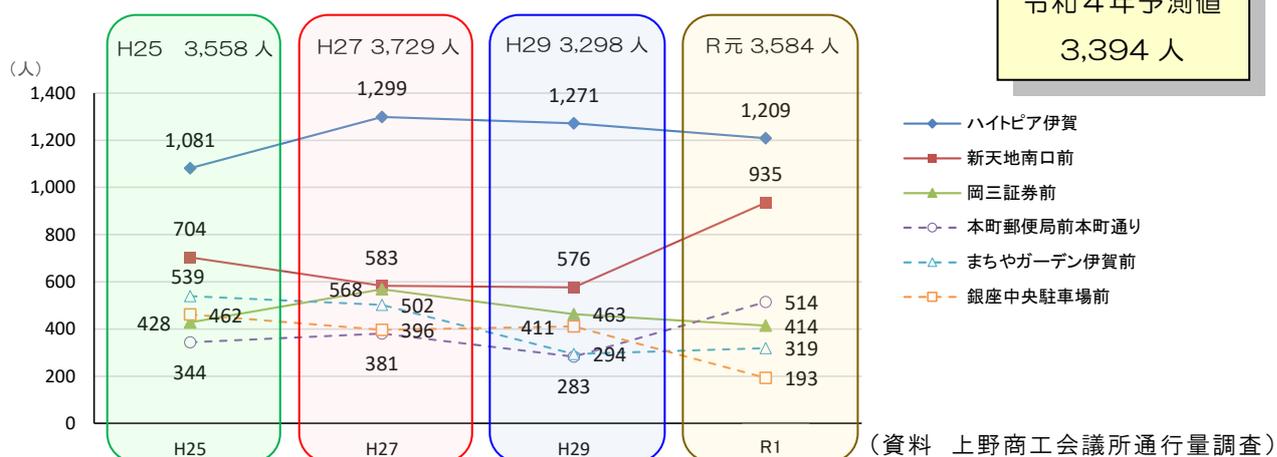
【スーパー閉店前 H30.7 通行量調査数】

- ・新天地南口前 349人/日 … 84人/日の減少予測
 - ・本町郵便局前 481人/日 … 106人/日の減少予測
- 計 190人/日の減少予測

令和4年目標値
4,000人

令和4年予測値
3,394人

図-歩行者・自転車通行量の推移



□ 調査地点

- ・ハイトピア伊賀
- ・新天地南口
- ・岡三証券前
- ・本町郵便局前本町通り
- ・まちやガーデン伊賀前
- ・銀座中央駐車場前

第1期計画の目標設定地点

イ. 目標値

直近4時点の中心市街地の歩行者・自転車通行量の推移をふまえ、その中で最も多い平成27年時点の3,729人を上回る4,000人/日を目標値とする。

ウ. 算定根拠

忍者をテーマとした事業や環境整備などの事業を実施するとともに、以下の事業を実施することにより、中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加を図る。

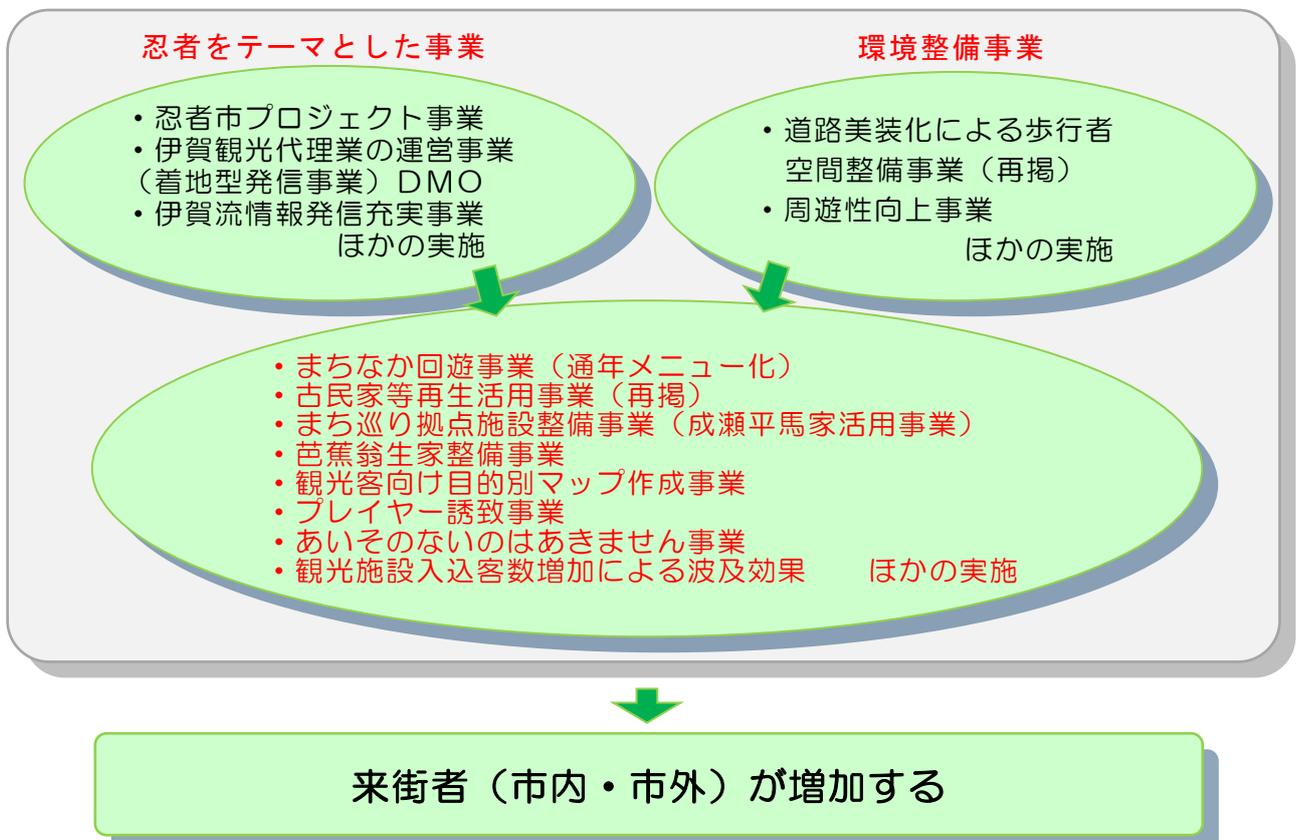
対象事業	増加数
・まちなか回遊事業（通年メニュー化）	24人/日
・古民家等再生活用事業（再掲）	328人/日
・まち巡り拠点施設整備事業（成瀬平馬家活用事業）	82人/日
・芭蕉翁生家整備事業	69人/日
・観光客向け目的別マップ作成事業	8人/日
・プレイヤー誘致事業	120人/日
・あいそのないのはあきません事業	12人/日
・観光施設入込客数増加による波及効果	48人/日
合 計	691人/日

◆ 定性的な効果の事業

- ・ 忍者市プロジェクト事業
- ・ 伊賀観光代理業の運営事業（着地型発信事業）DMO
- ・ 伊賀流情報発信充実事業
- ・ 道路美装化による歩行者空間整備事業
- ・ 周遊性向上事業

エ. 目標数値積算の考え方

次のような考え方で目標数値を確保する。



オ. フォローアップについて

毎年実施する通行量調査をもとに、中心市街地での歩行者・自転車通行量を把握し、数値目標の達成状況を把握・分析する。

③ イベント参加者数

ア. 傾向

伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」は増加傾向にあるが、そのほかのイベントについては近年横ばいの状況である。

イベント名	目標指標3「イベント参加者数」					基準年度
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
伊賀上野NINJAフェスタ	33,000	37,000	40,000	36,000	32,000	
ライトアップイベント「お城のまわり」	-	-	13,000	16,000	18,000	
市民夏のにぎわいフェスタ	45,000	50,000	50,000	65,000	50,000	
伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」	1,531	1,476	2,125	2,544	2,404	
伊賀風土FOODマーケット	1,000	1,000	1,500	1,500	1,500	
合計	80,531	89,476	106,625	121,044	103,904	

イ. 目標値

中心市街地で継続的に実施する各イベントの参加者数は、過去5年間の推移をふまえ、各イベント、行事ごとにおけるそれまでの最大参加数の合計数、**127,044人**を目標値とする。

ウ. 算定根拠

各イベントの参加者数は過去5年の最大値の合計数。各事業をブラッシュアップし、イベントを通じて、まちなかの魅力を市内外に情報発信する。

イベント名	目標指標3「イベント参加者数」					基準年度	目標年度
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R4年度	
伊賀上野NINJAフェスタ	33,000	37,000	40,000	36,000	32,000	40,000	
ライトアップイベント「お城のまわり」	-	-	13,000	16,000	18,000	18,000	
市民夏のにぎわいフェスタ	45,000	50,000	50,000	65,000	50,000	65,000	
伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」	1,531	1,476	2,125	2,544	2,404	2,544	
伊賀風土FOODマーケット	1,000	1,000	1,500	1,500	1,500	1,500	
合計	80,531	89,476	106,625	121,044	103,904	127,044	

対象事業	増加数
・伊賀上野 NINJA フェスタ	40,000人
・ライトアップイベント「お城のまわり」	18,000人
・市民夏のにぎわいフェスタ	65,000人
・伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」	2,544人
・伊賀風土 FOOD マーケット	1,500人
合計	127,044人

エ. 目標数値積算の考え方

市民活動によるタウンマネジメント力の向上を図り、次のような考え方でより魅力的なものとして実施することで、参加者数の増加を図る。

- ・伊賀上野 NINJA フェスタ
- ・ライトアップイベント「お城のまわり」
- ・市民夏のにぎわいフェスタ
- ・伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」
- ・伊賀風土 FOOD マーケット

また、地域との連携によるなど、新たなイベントを実施することで参加者数の増加を図る。

オ. フォローアップ

各イベントの参加者数を計測することにより、数値目標の達成状況を把握、分析する。